

野外音楽イベントに参戦して

7月19日（土）・20日（日）に、いわみざわ公園で開催された、JOIN ALIVE（ジョインアライブ）という野外音楽イベントの2日目（20日）を観戦してきました。野外ライブに行くのは初めてだったのですが、雨予報だった天気も晴天に恵まれ、絶好のイベント日和でした。

本イベントは、2010年からの開催で今年で5回目を迎え、2日間に渡り4会場で、世代もジャンルも違う計72組のアーティスト（ナオト・インティライミ、湘南乃風、加山雄三、TOKIO、ウルフルズ等）が会場を盛り上げるというもの。当日は、野外で美味しいビールを飲もうとバスで出かけることにして、集合場所のバスセンターに出発時間の30分ほど前に到着したのですが、既に長蛇の列が出来ており、イベントの盛り上がりを感じさせる状況でした。

ここまで書くと、とても音楽好きなおやじに聞こえると思いますが、実は、息子が活動しているバンドがイベントに出演することから、家族で応援に行ったというものです。息子の出番の時は、誰も観客がいなかったらどうしようと内心ひやひやしていましたが、予想に反して沢山の人が詰めかけてくれて、とても盛り上がったので安心しました。

息子が高校3年生の時に、「音楽活動を行うのに学校に行っている時間が勿体ないから学校を辞める」と息子から言われて慌てたことを思い出し、懐かしさと共に、取り敢えずここまで大勢の観客の前で演奏できるまでになったとの安堵感で一杯でした。後で、主催者側に聞いた話だと、キャパが4,000人の会場で、3,500人程度入っていたとのこと。他のアーティストの演奏も聴きましたが、息子のバンドが一番だったと親バカぶりを存分に発揮していました。

会場で1日過ごして感じたことは、会場には沢山の人がいましたが、特に10代・20代と思われる若者が沢山いて、とても元気一杯に動き回る姿を見ていて、職場にも若者の力が必要だと再認識しました。また、「TOKIO」のステージは、それまでバラバラに行動していた大勢の観客（テレビ報道によると13,000人）が、長瀬さんの一言で一瞬の内に一体となった空気感は、その場にいた人でないと感じられないと思いますが、鳥肌ものです。

最近の「TOKIO」と言えば、無人島に小屋を建てて自給自足の生活？を送るなど、ザ！鉄○！DASH！のイメージでしたが、彼らの放つオーラは凄く、老若男女を問わずに惹きつけられていたと思います。彼らのトークのタイミングとか間が絶妙なのも人を惹きつける要素の一つと感じました。

それを参考にして、日常業務の中の会話や説明会等での説明などに生かしていければと感じた次第です。いずれにしても、音楽の持つすばらしさとか、音楽を通じて見ず知らずの人が一体になる感覚とか、札幌ドームで見る野球とはまた違った感覚を味わった1日となりました。1度経験したらやみつきになると思います。歌ったり踊ったりするとストレス発散になりますし、健康管理の一助になると思います。機会があったら、皆さんもイベントに参戦してみませんか？

（管理部管理課長 吉田 進）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN（International Standard Serial Number：国際標準逐次刊行物番号）は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。